

ベトナム社会主義人民共和国 ハタイ省ドンラム村の調査

文化庁文化財部は、平成15年3月にベトナム社会主義人民共和国文化情報省文化財局と、「ベトナム社会主義人民共和国文化情報省文化財保護局及び日本国文化庁文化財部との間における覚書—伝統的集落および建造物の保存、修復、管理の分野における技術協力に関して—」と題するROD (Record Of Discussion) を交換した。協力の具体的な方法は、ベトナム政府が集落保存の第1号として保存を目指しているハタイ省ドンラム村の保存をモデルケースとして技術協力をおこなうものである。このようななか、当研究所は文化庁の協力要請を受け、集落調査から集落保存方策の策定についての技術協力をおこなうこととなった。

ドンラム村は、ハノイ西方に位置し、ベトナム国内でも歴史ある村として知られている。今回の調査対象は4つの集落からなり、集落それぞれに集落の中心となる廟(ディン)をもち、ディンを中心に街路が網の目状に構成され、要所には集会所(ディエム)や公共井戸を配置するなど、特徴ある集落形態が残る。かつては各集落が竹垣等で囲われ、門を有していたといい、一部にその門も残る。集落内の街路に面しては、屋敷地を囲む塀や門や附属屋が連なり、それらが主としてラテライトで構築され、特徴ある街路景観を形成している。さらには、屋敷地内の主屋や附属屋の多くが伝統的木造建築であることも、この集落の価値を高めている。

本年度は、日本における集落保存の方法とその事前調査の方法を、ベトナム側の現地調査隊であるハノイ国家大学と建築研究所に説明するとともに、具体的調査方法を協議し、主として現地調査隊による調査をおこなった。その内容は、基本的なベースマップの作成と、現況調査である。それをもとに、平成16年3月に、現地で開催されたワークショップに参加した。ワークショップは2回おこなわれ、ハノイでは主として中央行政および研究者を対象に、ハタイ省では主として地元行政・住民を対象におこなわれた。ワークショップでは、現況調査の中間報告をおこない、保存に向けての考え方を説明するとともに、地元行政・住民との意見交換をおこなった。

今後は、当研究所を主とした調査隊を編成し、現況調査とともに集落構造・建物等の歴史調査をおこない、これをもとに保存のためのルールづくりについてベトナム側と協議する予定である。

(島田敏男)

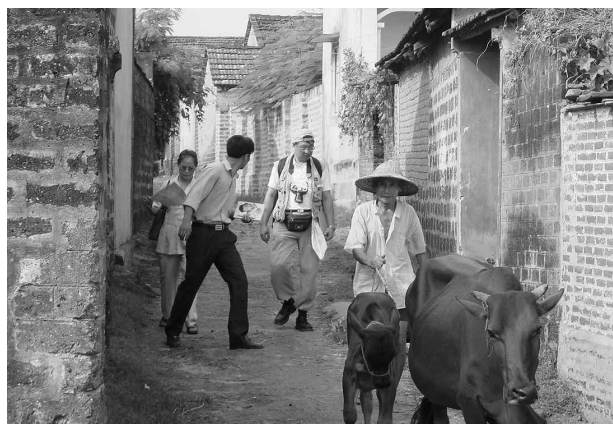


図9 調査風景

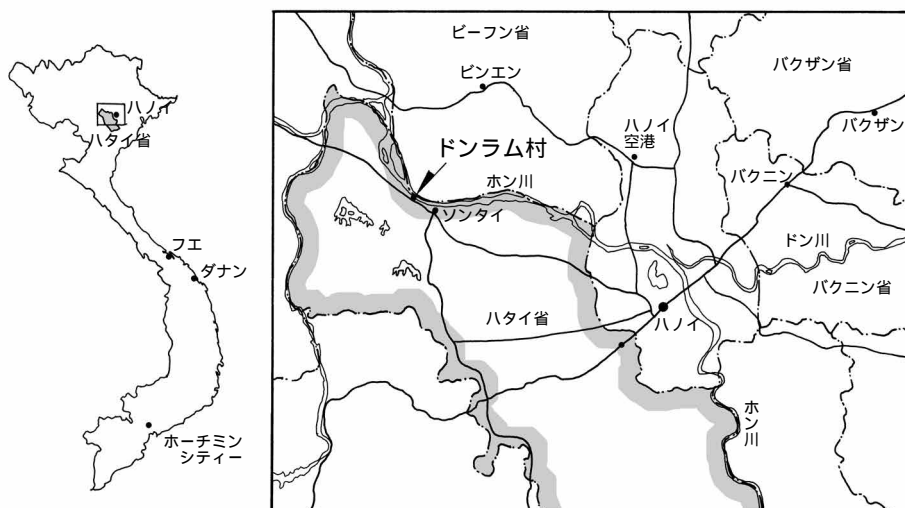


図8 ドンラム村位置図



図10 現地ワークショップ